

令和 5 年 8 月 8 日

東員町議会総務建設常任委員会委員長

大谷 勝治 様

東員町議会

山崎 まゆみ

研 修 報 告 書

研修期間	令和 5 年 8 月 1 日 (火) ～8月2日 (水) 【 2日間】
研修 (視察) 先	8月1日・・・京都府舞鶴市役所 8月2日・・・奈良県王子町 美しが丘集会場
目的 (テーマ等)	8月1日・・・meemo(ミーモ)サービス＝公共交通を補完する新しい 移動サービスについて 8月2日・・・グリーンスローモビリティについて
参加議員名 (複数の場合)	大谷委員長、片松副委員長、 南部委員、大崎委員、山崎委員
資料添付の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

《研修概要、内容》

8月1日・・・「京都府舞鶴市共生型 **Maars meemo** (ミーモ)」について
舞鶴市政策推進部企画政策課 交通政策担当課長 泉 光信 氏

◎舞鶴市の公共交通の課題

- ・ドライバー不足
- ・利用者の減少

◎社会の課題

- ・人口減・経済活動減

☆地域住民に「共助」の取組に参加・協力してもらい、市民・地域・企業・自治体などが協力しながらまちをつくり、維持していく必要がある。

◎舞鶴市総合計画の中での公共交通

☆持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークの在り方の検討

☆共生型 **MaaS** 導入による交通システムの構築

◎舞鶴市が目指す公共交通ネットワーク体系

①軸となる幹線・・・鉄道、バス

②幹線に通じる支援・・・バス

③支線へのアクセス・・・**meemo**⇒「Omron オムロンソーシャルソリューションズとの包括連携協定によるマッチングアプリ」

④ドア to ドア輸送・・・タクシー

◎**meemo**

1, 住民同士の送迎

2, タクシー配車

3, つながり促進 (情報配信・入手)

●住民同士の送迎で事故発生した場合のサポート

●R2 実証実験結果=**meemo** アプリ利用よりも電話予約が多かったこと

●R4 実証実験結果=住民同士の送迎マッチング率、年平均8割以上と高い数値を維持
==住民ドライバーの頑張りによるもの。

=住民全体でまんべんなく利用されている状況ではなく、数名の利用者が繰り返し利用する状況となっている。住民ドライバーについても、一部のドライバーに偏っている。利用ユーザー数は、月当たり数人にとどまり、アクティブユーザー数(月8回以上利用)は1~2人と低調に推移。

☆R4 予算額=「企業版ふるさと納税」を利用できた

☆R4 事業費=¥9,304,264 で、利用者が少ない割に高額、費用対効果の面で十分な効果あげられていないと評価。

☆R5 予算額=一般財源¥7,995,000 と増額し、運営経費が高額。

◎**meemo** の課題=「運営経費の高額」、「運行エリアが限られる」、「地域住民の関心が低い」

◎利用しやすい **meemo** への変更検討、「地域運営組織」の設立、自家用有償旅客運送

の登録。

8月2日・・・「奈良県王寺町美しが丘自治会でのグリーンスローモビリティ」について

王寺町政策推進課 係長 酒田 氏

王寺町美しが丘自治会長 上平 隆己 氏

美しが丘自治会は 1,400 世帯、人口 3,500 人

高齢化が進み、坂が多くて外出の移動手段確保が課題⇒⇒自治会でグリーンスローモビリティの運行を決定。

王子町、ヤマハ発動機と連携し、千葉大学予防医学センターの実証実験。美しが丘自治会は町内でまとまりのある地区で、協力的な人が多い。

◎グリーンスローモビリティの長所＝小回りがきく。開放的（外の景色を楽しみながら）。車幅が 1.3 メートルで小回りがきく
電気自動車環境に優しい。一回の充電で 36K 走行。

◎運転手＝3名の住民が登録。平均年齢 70 代前半。

◎課題＝周知方法が難しい。（チラシ全戸配布と回覧のみ）

車両購入等のためには、自治会が法人格を取得する必要がある。

◎行政の支援＝後方支援（警察との連携他）

《所感》

オムロンソーシャルソリューションズとの包括連携協定での舞鶴市の取組は、地域全体でまんべんなく利用されている状況でなく、数名の限られたユーザーが繰り返し利用する状況であることと、住民ドライバー登録者 29 名のうちでも、マッチング成功して利用されたのは、一部のドライバーに偏っていたという結果や、そもそも高齢者はスマホ操作が苦手なアプリを使うよりも、電話をかけて予約するという方の方が多いという点で費用対効果の観点で十分な効果をあげられていないという評価、さらに財源として一般会計から ¥7,995,000 と増額であることから、当事業がなかなか難しいということも伝えていただきました。しかし舞鶴市共生型 MaaS の地域ドライバー登録されている方は片時も離さずに、スマホを持ってみえるおかげでの、住民同士の送迎マッチングが R3 年度で 87%、R4 年度で 80%、と高い成功率である点が、「お互い様」の精神が本当に素晴らしいと思いました。「つながり促進・感謝のしるし "mee" を使って感謝を伝えたりあいさつができるという仕組みは面白いと思いました。

舞鶴市 Meemo の運行も王子町美しが丘自治会でグリーンスローモビリティの運行も、ドライバーは無報酬、利用者（ユーザー）は無料で利用できるが、ユーザーの遠慮の気持ちを払拭するためにも、有料利用化の検討をされている点、ドライバー登録者の方々の励みにもなるし、ボランティア有償化を考えるための参考になります。

レジュメのまとめにもあるように、これからの地域社会を維持していくためには、共生型社会（＝住民同士のお互いの助け合い）が重要です。

「今まだ大丈夫だ」と澄ますのでなく、将来（10年後、20年後…）の地域交通のあるべき姿を考えることが必須であり、未来を見据えた対策を講じないといけない。ということを強調されていたことに、共感しました。

「東員町地域公共交通計画」でも“持続可能な地域公共交通ネットワークを構築し、町民をはじめとする人々の移動の利便性を向上させること、交通弱者が公共交通を利用して移動できる人が増えることを目指しています。国の補助メニューなどを活用しながら、効果的・効率的に進めて目標達成していけるように、取り組んでいけるようにするため、今回の視察研修は参考にさせていただけることが多く有益でした。